

委員会の動き

総務委員会

★省エネ法の改正により、測定単位が変わったが、なぜ基準となる1500キロワットを超えたのかとの質疑に対し、ウエルピア伊予を含め、約2300キロワットとなる。省エネ法では、毎年1%削減という努力目標があり、管理基準を定めて、省エネ機器の導入等を図っていききたい。

★地域おこし協力隊の募集をし、「住民自治されだに」で活動ということだが、募集の方の定住はどの質疑に対し、総務省の財政支援を受け9月1日から採用する計画で、雇用期間は最長3年間で、できれば定住してほしい。また活発な活動ができるようなら、他の地域でも考えてみたい。

★食育&食文化振興・交流促進委託料では、これまでの経過と今後の思いの質疑に対し、実行委員会では民主導型で伊予市の食材を使ったまちおこし、先進事例の紹介や講師を招いての研修を実施してきた。事業3年目に当たり、具体的な取組を行っていく横断的連携のもと、協力して事

業展開を図っていききたい。

★総合保健福祉センター設計業務委託料では、理事者と特別委員会との意見調整もできていないのに予算を計上しているのはなぜかとの質疑に対し、市の方針としては、総合計画実施計画の方針決定に基づき、議会にも示した上で計画を進めており、合併特例債の期限があり、スケジュールどおり進めている。

民生文教委員会

★文部科学省所管の全国学力学習状況調査と業者の学力テストの関係についての質疑に対し、この調査は小学6年生と中学3年生のみを対象としていたが、希望制となり、学校側と協議した結果、中学校では全校で行い、業者の学力テストは希望制で1校のみ実施予定となったとの答弁があった。

★業者の学力テストは、なぜ、公費で、年に何回実施するのかとの質疑に対し、平成20年度から学校評価が法律で義務づけられており、全学年を対象にした業者のテストにより、学力の経年変化を知ること、子どもの学力の保障を各学校で実践していくためである。また、テストは年1

回、学校の実情に合わせ、学力の把握等をしたい時期を選んで実施するとの答弁があった。

★子ども体力向上地域連帯支援事業についての質疑に対し、この事業は、地域と連携した体力向上のあり方の調査研究を行うものである。近年、スポーツに取り組む子どもと、そうでない子どもの二極化が問題となっている。そのため、地域の関係団体にも現状を知ってもらった上で、意見をいただき、伊予小学校を中心に愛護班、体育協会、PTA、学校等、あらゆる団体で体力づくりの場を設け、子ども達が楽しく体を動かす生活習慣を身に付けるためである。

産業建設委員会

また、外部指導者を招き新しい遊びやスポーツを普及させる内容との答弁があった。

★日本下水道事業団の概要と委託の目的についての質疑に対し、終末処理場等の根幹的施設の建設では、高度な技術者が必要となるため、地方公共団体が出資し設立された。5億円以下の分については、5・3%の金額で工事発注をして現場監督、工事検査をし

てもらえ、一般の業者に発注するよりも、かなり経費等の節約ができる。

★赤坂用水樋管予備設計委託料の設計内容についての質疑に対し、平板測量が4500㎡と横断測量を5本、ボーリング調査を3カ所行った後に地質の試験等を行い、資料の整理を行っていく。今回の設計委託で樋門全体の8割方できるが、耐震設計だけがこの委託に入っていない。国費を使って事業内で設計ができるため、計画概要書と河川協議における必要最低限の設計費用のみを予算計上している。

★観月橋詳細設計委託料についての質疑に対し、観月橋は以前木製であったが、現在の橋は県費補助により、昭和53年3月末に完成したもので、市道ではないが、川を渡つての通路的、歩道的役割を果たしてきた橋であり、非常に大事な橋だと認識している。

大事な橋だと認識しているのであれば、できるだけ早く予算を計上し、地域の人から喜ばれるよう、1日でも早い完成をとの要望意見があった。

編集後記

昨年4月の初当選から1年が経過しその間、政治・経済は大きく変革をとげている。与野党逆転からくる政治の混乱、企業の海外進出による産業の空洞化と雇用不安の増幅、かつて日本は、「経済は一流」「政治は三流」と言われたが、いずれも三流に成り下がってしまったのか。

日本の社会はいま、閉塞感、無力感に包まれ、若い力を引き出せないでいる。若者が希望と勇気を持ち、新たな目標にチャレンジできる環境の創設は急務である。

私たち地方議員は、市民目線でのムダ、ムラを排除し、効率的かつ効果的に皆様から頂いた虎の子の税金の使い道を判断しなければならぬ。課せられた使命は大きい。

文責 北橋 豊作

議会広報調査特別委員会

- 委員長 武智 邦典
- 委員長 北橋 豊作
- 委員 日野 猛仁
- 委員 高井 洋一
- 委員 門田 裕一
- 委員 青野 光
- 委員 水田 恒二